

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第6回地域移行・地域生活支援部会			
(2) 開催日時	平成28年10月13日(木) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	大田区役所本庁舎9階 905会議室			
(4) 出席した委員、事務局	委員(部会長:青山 明子)			
	白井 絵里子	志村 陽子	鶴田 雅英	福田 功志
	岡本 洋	齋藤 信子	林 達彦	山根 聖子
	山田 悠平	岡田 あい子	井岡 幸子	山田 紗梨
	藤牧 裕佳子			
	区職員:金子 江理子(健康医療政策課)			
	関係者:石毛 哲洋(障がい者総合サポートセンター相談支援部門)			
事務局:井村 陽介、岩下 祐輔(障害福祉課) 江波戸 宏、星 美保、齋藤 愛理(障がい者総合サポートセンター)				
(5) 内容・要旨	<p>1 確認・連絡事項</p> <p>(1) 司会・書記の確認 司会:青山部会長 書記:山田悠平委員</p> <p>(2) 出欠・配布資料の確認</p> <p>(3) 第2回運営会議(10月6日)の実施報告 ・次回の全体討議会開催日が確定した。(12月5日) ・議題項目は①推進プランの検討、②差別解消法にかかる検討、大田区自立支援協議会のあり方検討。 ・第3回全体討議会は、学習会ではなく、会議を行うことが確認された。</p> <p>(4) 第2回本会の開催について</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 前回の振り返り(各委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所施設、グループホームや地域で見守りながらの独居生活など、親の会としてサポートしてきた。親の会ではボランティアで形を作って制度化を行ってきた。障がいの程度や家庭事情などによる優先順位も鑑みられて、福祉サービスを利用する方とその利用量に差が出るのはいたしかたないだろう。本人のニーズを把握するのは、親の立場の経験でもわかりかねるので、ニーズ把握は常に問われることと思う。 暮らしのあり方は、健常者もふくめて、親の同居の有無を含めて多様になっているので、多様な生活が選べれば良いと思う。 ・自立生活を支える組織は全国でも稀有なものである。大田区の中でもそのありようを丁寧に探っていく必要がある。具体性を推進プランで検討を深める必要はあると思う。 ・地域実情を理解する機会になってよかった。障がい者の相談を受ける中で、医療的な緊急対応に対する資源の少なさを業務で感じている。 ・知的障がい者が後見人を受けることがある。知的障がいと一言にいても、多種多様であり、パターン化した見立てをしないように、可能性を模索することが自立生活においても重要かと思う。 			

- ・職務の経験に照らしても、地域での生活を続けることの重要性を再認識した。
- ・知的障がい者の地域生活のありようを知るいい機会になった。病院でも軽度の知的障がい者を支援することもある。病院では、知的障がい者と精神障がい者によって支援のあり方が変わってくる。サポートのあり方は常に問われると思う。
- ・大田通勤寮や風雷社中の事例を具体的に知ることが出来た。今後、知的障がい者の支援の際などの参考にしたい。
- ・風雷社中の事例は、自分の息子に照らして考えながら見ていた。親の立場として、父親と母親でも考えの違いもあると思う。どのように自立していくかは、目下課題である。
- ・知的障がい者の事例からも本人のニーズを把握することが重要だと思う。
- ・地域で暮らし続けること、インフォーマルな支え合いについて制度も含めて今後のあり方を探りたい。自立支援協議会における情報交換を通じた検討の重要性を再認識した。
- ・学校の立場で、卒業時に本人の希望する生活を体現できないこともある。本人の障がいの程度などによって、ニーズと地域の資源のマッチングが選べる仕組み等いざ使える制度が増えることが大事だと思う。
- ・個人ベースに負担がかかりすぎないような仕組みが必要だと思う。テレビ放映の報道資料では、普遍性のある見立てに限界もあるかと思う。非言語コミュニケーションも含めて、ご本人や現場に行くのは大事だと思う。
- ・本来は計画相談がチーム支援を決めていくものだが、件数が膨大で丁寧な仕事できていないというもある。グループホームは、単身の生活に限りなく近いものもある。平成 30 年度からの新たなサービスも含めて選択の可能性があると思う。本人に合った集団生活や単身生活を選べるありようが大切。住む地域は選べるのが大切だと思っている。理念を共有しながら、困難なケースを自立支援協議会で検討することが大事だと思う。
- ・それぞれの立場から、知らないことを知ることが大事だと思う。そのような自立支援協議会であってほしいと思う。

(2) 前期のふりかえり

- ・各部会検討の目的を確認しながら、議論するのが重要である。
- ・推進プランについての討議の取り組みが、弱かったのが反省である。
- ・意見出しカードも今年度取り入れていい形になっている。
- ・部会討議にあたっては、地域課題を残すことが重要かと思う。

(3) 今後のスケジュールについて

- ・川口有美子氏による講演会実施に関しての検討
日時・会場候補：12月22日（木）9：30～12：30（さぽーとぴあ）
担当委員：鶴田副会長、志村副会長、山田悠平委員
連絡、周知案内、協力体制の整備の検討を担う。
主要テーマ：医療的ケアを受け続けて地域生活をおくること（案）
次回部会で、作業部会から提案を行う。
- ・次回（11月）の検討内容
推進プランについて、12月学習会に向けてを主に検討をする。